

S S T L

きらく＝ネット

KIRAKU-net.com

発行人：埼玉県障害者団体
定期刊行物協会
〒332-0011川口市元郷1-10-13

編集人：喜 楽 家
〒271-0051松戸市馬橋2-9-86
TEL 047-344-9951

No. 131

定価100円

新松戸チャリティー フリーマーケット



今年もカレンダー
一作りしました～
ぜひ、見に来て
くださ～い

新松戸フリマに
はお食事用皿を
お持ちください
ね。



日時：10月30日(日) 10時～3時
場所：新松戸中央公園 小雨決行

今年のフリマもたくさんのお店があると思います。ぜひ、遊びにお買い物に来てください



はなみずきフリーマーケット

日時：11月13日(日) 10時～2時
場所：はなみずき公園(常盤平さくら通り)
小雨決行

「ホームきらく」からのお便り⑪

今年の夏は花火をしたり、お酒をのんだりと去年より夏らしい事ができました。

ひらやま農園（ホームの脇にある小さな庭に理事長が作った庭先農園）で育った夏野菜も彩り豊かに食卓へ飾っています。そんな夏もあつという間に過ぎ気づけば9月も終わり実りの秋ですね。衣替えも少しずつやり始めた今日この頃。

秋といえば果物もおいしい季節なのでホームきらくでは梨や柿など季節物をデザートに取り入れています。

ホームきらくのメンバーのなかには食材をそのまま食べる事が難しい方のためにミキサーをするだけではなく、コンポートにしてみたり、より美味しく安全に食べていただく試行錯誤をしています。

また、ご近所の方から栗の差し入れをいただいた時は世話人・ヘルパーとで協力し館にしてメンバーが食べやすいようにしました。「頑張った甲斐あって、メンバーも喜んでくれたのよ～」と報告がありました。

季節物やメンバーからのリクエストなども取り入れていけたらなと思います。

～これから新米の季節なのでいつもよりちょっと美味しいお米でごはんを食べてもらいたいなあ～

(吉田)



カープと私

喜楽家唯一のカープファン 小島です。(隠れファンの方がいたらすみません)

皆さんもご存じのようにカープは今年25年ぶりにリーグ優勝しました。
バンザイー

さて、私は昭和43年広島生まれなので、子供のころから自然にカープファンになった…かということそうではありません。

昭和50年にカープが初優勝した時、私は小学校2年生。

まわりが「カープ！カープ！」と言っていて学校の帰りの会では、強制的にカープの歌をうたわされとても嫌でなぜか阪神ファンになりました…笑

月日はながれ今から6年前に第一子出産で広島に帰ったときに突然「カープファンになろう！」と思ってそれからカープファンなのです。

なのでカープファン歴は意外と浅いです。アハハ

こっちでは広島戦の中継をめったにやらないので、選手の顔も有名どころしか覚えていませんし、ルールもうっすらとしかわかりませんが、(振り逃げとか隠し玉とかよくわからない…)

それでも好きなチームを応援するのは楽しいですね！

喜楽家でももっともっと野球ファンが増えてお話しができると思います。



小島千恵野

裁縫ボランティア募集！！

こんにちはさき織り班の石塚です。
さき織とはよこ糸の代わりに裂いた布を使った織物です。
私たちはさき織りでポーチやコースター鍋敷き等を作っています。
織った後、形にする裁縫の部分は私たちには難しいので、ボラン



ティアさんやスタッフがやっています。
私たちと一緒に作品を仕上げてくださいる方を新しく探しています。
裁縫が好きな方、得意な方、興味のある方、
連絡お待ちしております。

連絡先 047-344-9951
喜楽家 安藤・森



水の輪コンサート報告

去る9月10日に三郷文化会館で水の輪コンサートが行われました。水の輪コンサートでは毎年、コンサート会場の入り口にて販売会をさせていただいております。

今年で30周年のという歴史のあるコンサートを毎年のように楽しい企画で開催していただいている嶋田先生には感服させられます。

今年のコンサートでは例年のように同法人ザザビー・ドウの心に沁みわたるようなトーンチャイムなど様々な方の発表と、その後の(メゾ・ソプラノ)波多野睦美さんの歌声と高橋悠治さんのピアノ演奏に会場が温かい雰囲気にも包まれていました。

最後に30年もの間続けて頂いた毎年の感謝の意を込めて嶋田先生に花束をお渡ししました。大変大きなイベントにも関わらず終始笑顔で、温かく迎え入れていただける水の輪コンサートは喜楽家にとっても大切なものとなっています。



呑んべ~のシリーズ第20弾

のんべ~のたわ言

呑んべ~のシリーズで境谷編集長からお声をかけていただき、文章が下手な私ですが書かせて頂くことになりました。

私とお酒…かれこれ20年以上前になります。

飲み始めた頃は先輩がとても怖く、吐いたら吐いただけ飲め!!的な時代でした。

トイレに籠ってそのまま寝てしまって気付いたら家…なんてことを繰り返し、今の私が出来上がりました(笑)馬鹿をやっていた20代30代。迷惑をかけた、笑われたり時には喧嘩したりもありました。

長崎旅行へ行き、本来の目的の皿うどんや長崎ちゃんぽんを食べ忘れ(T__T)ひたすら飲んでしまって撃沈したことや、居酒屋から始まり閉めのカラオケボックスではじけ過ぎてソファから落ちたり、なぜか足や腕にタンバリンのあざが出来ていたり…。

長野県在住の頃は恥ずかしながら駐車場の車輪止めを枕に友達と三人で寝てしまっていたり…(苦笑)さすがにこれ記憶なしです(—__—)!!

家にはたどり着いたものの、玄関開けようとドアノブ片手に立ったまま寝てしまっていたり…(>_<)

どれもこれも恥ずかしい失敗ばかりです。それでも、楽しいお酒は止められません。

流石に今では落ち着いています……チョットした悪くraisはたまにありで(*^_^*)

こんな私ですが、一緒に飲む機会がありましたら宜しくお願い致します。

☆今年も娘も二十歳を迎えるので、一緒に飲んで語り合いが出来たら良いなあと思っています☆



喜楽家 原口明美

呑んべ~のみなさん。

次に原稿をお願いするのはあなたかもしれない!!

声の文法 改 - 2

「論証」という方法—その1

序 前章で日本語人は、すでに話すことができるので日本語文法には興味をもたない事、また、話し言葉と書き言葉(漢文また漢文の読み下し文)が別に存在する事を述べた。

後者は西欧語では、アルファベットは表音文字なので、言文一致である。話し言葉と書き言葉が一致しているのが原則である。

前者について、つまり文法について、西欧語の世界では古代から極めて自覚的であった。

これは本論の主張している。日本語が「声の文法」であるのに対して、西欧語が「形式の文法」であるのに大いに関係している。簡単に答えを言えば形式の文法だから「形式」を取りだし易いということだ。のみならず社会の言葉の使用法(これは文化とも言い換えられるが)、もちがっている。

今回の「論証」という日本語の歴史には見られない、西欧語に特有の言葉の使用法をテーマとする。

一 「論証」とは何か

「論証」とはことばによるバトルである。つまり、公然と=人前で、すでに明白である結論=自分の意見を、困いの人々、反対の論者が否定できない事実=論拠を示しながら論争し勝負を決めるゲームである。

例えば「神の存在証明」という「論証」がある。東洋では仏様や天理の存在を証明することなど考えない。それはあるものと前提している。またUFOや幽霊がいるか、いないか言い合う雑談ともちがう。西欧中世の神学者、11世紀のアンセルムスや13世紀のトマス・アクィナスは、当然ながら神の存在を信じていた。そしてそれを疑う者や異教徒が、常識に従って考えて、最後には神の存在を認めざるを得ないような理屈・筋道を考えて主張した。それが神の存在証明である。奇跡によってでもなく、感情に訴えるのでもなく、もちろん強迫によるのでもなく、落ち着いて、常識で考えてゆけば神の存在は確信できるというのが、彼らの主張である。この論証は、カトリック教会の正統性、権威を保証することにもなる。

またこのように常識的な方法であるから、他の様々な分野でも、時代を超えても行われた。17世紀のデカルトも、20世紀のゲーデルも「神の存在証明」を行っている。もともと二人とも中世の神学者とはちがって、カトリック教会に対しては敵意を持っていた。では何故、「神の存在証明」が必要なのか。彼らは、その知的活動によって追求する「真実」は全人類に共通のものと考えていた。のみならず数学によって追及する物体の法則は全宇宙の「真実」の本性を示すと考えた。さてそれが一個人の思い込みや妄想ではなく、「真実」であると保証するのは何か、それは全知全能の神以外にはないのである。西欧の知識人は知的活動=論証を通して「真実」にたどり着いた時、そこに唯一の神、全知全能の神がいると考えているのである。(ここで注記だけしておけば、カントや英国の経験論者はこのような考え方を、否定している)

「論証」のもっとわかりやすい例は、T.V.で時々話題になる「ディベート」である。

ディベートは原発やT.P.Pの是非というように、ひとつのテーマをめぐって、賛成派と反対派の二手に別れて論じ合い、勝負をきめるゲームであるが、参加者個人の持っている意見とは関係なく、くじやじゃんけんでどちらかに分ける。問題は、どちらが正しいのかではなく、どれほど説得的に議論を展開できるかの技術なのである。チェスや将棋のように、相手の手の内を読み、弱点を有効に攻撃するのが重要で、もちろん勝負は、観客が決定する。

一-2 「論証」を生んだ古代ギリシア

このディベートの源流は古代ギリシアにある。当時のギリシアでは、ソフィストと呼ばれる論争術の先生がいた。そのひとりカルネアデスは紀元前155年、ローマに派遣された折、あるテーマにまず賛成の立場で見事な論証を見せローマ人から称賛を得た。その翌日、反対立場からも完璧な論証をなして、より評判を高くしたという。

ギリシアはソフィストそして、フィロソフィスト(哲学者)を生み出した。彼らの駆使する論証の技術は現代の西欧社会では理科系、文科系を問わず標準の技術となっているのである。しかし日本では、ディベートなど話題にはなるが、定着したとはいえない。ディベートを上司に仕掛ける会社員、先生と論争する生徒などは唯「なまいきだ!」と思われるだけだ。この大きな意識の差には、言葉の仕組みが西欧語と日本語では異なることが作用していると考えられる。そこで遠回りのようだが、このような言葉の使い方を生み出したギリシアの歴史的背景について、古代にもどって考えたい。

一-3 海洋民族としてのギリシア人

20世紀は西欧文化が支配したのはまちがいない。アジア・アフリカの国々が近代文化を目指したがモデルは、西欧の国家体制、法秩序、軍隊組織、科学技術であった。日本の明治維新も正しく、それを目指すものであった。

産業革命によって、大きな経済力を有したアジア・アフリカを植民地としたのは西欧人だった。彼らの文化に大きな活力をあたえたのが、ギリシア・ローマ文化とキリスト教であったといわれる。

このうちのギリシア文化は、他の古代文明が農耕に基盤を置くのに対して、島々を舟で結ぶ商業によって発達した点が大いにちがう。

以下 論証の技術の中心として、ギリシアの古代文化の様子を、次回に述べたい。

西川 淳司

☆☆☆ボランティア募集☆☆☆

喜楽家は重度の障がいを持つ人たちが通所するところです。

私たちの日常をサポートして下さる方を募集しています。

「月に1度2度」あるいは「1～2時間ぐらい」など貴方のご都合に合わせてお付き合いいただければうれしいです。

◎『日常の手伝い』 日常の作業（最近の名刺作成、カレンダー作り、手すきはがき作り、さき織りなど）

◎『食事介助』 昼食の補助をしていただいております。

◎『お風呂介助』 現在、男女週1日ずつ入浴しています。スタッフの補助をお願いします。

◎『この他にも』 皆様にお手伝いしていただきたい事がたくさんあります！お気軽に喜楽家までご連絡下さい。

コールドランドにようこそ!!

今日のおかずは立って食べます。おかずに食べます。

高校生は孝行セイ

* 今いくぞ くる造より

おやじギャク なぞかけ



犬のブルドックとかけオリンピックで金メダルを取った人とく。その心はナンバーワン

境谷 ケンシロウ

行事予定

スポーツレク大会でのひとこま



新松戸チャリティ
フリーマーケット
10月30日
ふれあいフィスティバル
(松戸駅西口公園)
11月11日12日
はなみずき公園
11月13日
クリスマス会
12月16日



編集後記

八百屋さんの店先にはいも、栗、なし、柿と秋の食べ物が並んでいる今日この頃。さてみなさんはどの食べ物が好きですか。

きらくニュース131号を発行します。今回のきらくニュースは2班合同の中人数外出。前回の載せられなかったのんべいシリーズ。ホームだより。さき織のボランティア募集などを記載しております。読んでください。気温がだんだん下がってきます。風邪などひかないように気を付けてください。



ありがとうございました

7月～9月にご寄附頂いた方

水の輪 嶋田様
西山商店様

こちらに掲載させていただいた方の他に、たくさんの方に寄附や提供品のご協力やボランティアでお手伝いしていただいています。ありがとうございました。

これからも協力いただきますようお願い申し上げます。